

ひらやま その九

※学校文藝集「ひらやま」は年度末の冊子ではなく、学校通信「財っ子」に賞や掲載し、掲載が「多木いーた賞ムベー」全一校シジには表も通信の裏面載してはなくて、学校通信「財っ子」に掲載するが、最も近しい！

☆県読書感想文コンクール【三席】

「きれいな町ですごくすには」

三年 布井沙和

力 事なよにけてと や思かたのだ うわてた面でじとン しらの
しわなもごしないわうっしぶちわにらサ にも村ビこてれ本わ
たたんのれぜいてうたたかてがぶがたもワイそどやう人アの したをた
りしだてたんかこしとらいアンボしやれフこんぶぶたの本ブきえし
しはなもげにだんとはこでてイをりがさまをでどけなち小はうゆらは
て とかなかなきをこるすもサ読ぶこしし作 ンたボはさ スうん
こ思んいえとよ知のが ントんくのくたりアすりり ンアチ食た
べれいきんら思うり本いア周とでろ本ながまいて ぶや村イツだ埋
んかまよのないがまをいイり同 のをり しサてあくシンサクよ由
りらしうーいま悪し読なサのジアひ読ま少たといなるのジトにりは
ざりたにつとしくたんとと目よイもんしし とうがを葉ヤがきに
とサ やないたな 度思もがうサでてたすぞ友た空使でウ主よブレ
カイ さのう っア い周気なトあ づれたのいうあに人うラジ
んク しかこまたイベまりに立えんー サをちてたよん住公味スぶ
ぎル いととたのサンしのな場らだ番 イ市は りうだんのをちく一枚
よし か思を 度トリた目っだいサ心 フ場 村しにかで伝もツッ
うた をい知ボ たさ がてつないに をにボがたなごい記ツクがす
のり 正まらりかちと 気すたとフの 買持リ大りをるでたご有て
バ、 しすなぶんはか にすら思をこ っつばへ、ま使 すかみりた
ラリ く かくきはん なんと一作つ ててくんしっわ ー問よ
ンサ 知だつろよじき ンで考まるた てくろな使たてかアで難うと
スイ るかたはうめよ てやえしとと れっをこえ いいイすのにい
をク こらのかの う いろるたここ るた捨となそま女サ こなう
上ル とベもごこベの たうと ころろ 人アいにいのしのト とっ本
手を がん村みとんバ けと ンでは がイ ン一ボた人は がたを
にし 大りがたもりラ れしいぜす 増サそつなりがで 書き読
とて い考さん どないな ア えトれてどぶ 西 い しみ
ついで えだス いこらわい ンはをしいくも ア て学ま
てる けなげ しだと たサ か ひまつろろアフ あ校し
人 いを大 さんろだもしト はんはもいてがやイリ った
べに とき切 じうとしはと きなにま 少すサカ たく
ん協 いえだ てとわわこ友 よでしし地しくトガ りばこ



には たまぼがとなっさく こ
 だにこべさっだいてをとこし
 きいのてんちときー も こて
 つるほいがじてつこつてろく
 きこんてとやもいてすつにれ
 まとをほつななかつたぼのる
 しがよしてくなたえうこく
 たうんいきてしさちうでつま
 れだてえかいみみたうたさ
 しあすさつごいるなたとん
 いと。さみたはななこれこの
 こはしでみるよでろてろこ
 とわくすんうでけはと
 だてな。な。こすがが、
 なしんかでもんとしふ、
 にはごつもしどそてゆだ
 におはくた、んでほのみに
 もいでとくでくほ、なすき
 まいみおましまきよりす
 しすないんっさんもつくつ
 したまはたとをてまた
 きなすひとさひくいと
 そかしよ。とこるんお
 せてくりさごがもえい
 が、お、かいあさんそ
 ちしたをす。
 にはちと
 いてでに
 にはい
 せまえい



「ユダヤ人を救う」

六年 三木 大蒼

[illegible]

りでかんきようにやさしい生活をしたいと思います。そうすることによって、わたしの町の海や川、山などがずっときれいなままでいてほしいです。

☆県読書感想文コンクール【佳作】

「まい日をたのしくするには」

一年布井奏多

とらふ きだしししし ーく かとー ふ犬すじが
 おふんそぶりゆったりこすは二らしいおーんや。°71だ
 もんがれんしぎたりまのタみつとうわふつはとたさいい
 いにあをにてより、し本1じめおとれろめニりとい5め
 まかつきよいうしいたをにかはも、たにはつをえくふい
 すえためつるのまえ。よのく、つ5と5、あ見ばらんを
 °たらるてととすにかんつかジたふきふおりる、い、み
 い、の、き、かんでたんエかんのんかま5車のみて
 ですはなじにだえが、とじしらも5つあすふが男じ、
 すき、がが、けつえなきまとしふかさ、んすのかど
 °なじいんせとたてがたしこそつんつん、です子いん
 そもぶかがん、りみいのた1。とてでてに、すむが5な
 うのんみあせじしる5し。°ス、つすな、°のかふ5
 しをでじついかたとふくどタ、か、さ、そをんん分
 たかすかとのんい、んてう1、つばい、のまがーが
 らん、いいおがかともしに、てく、なつえとある
 °がほかうはならうあたての、いは、かてるいる
 きえくきまなが、下れのかつ、た、でい、うのか
 ってはまでくしほ校ばりとい、らな、るい本か
 と、るすをかくの、たいい、が、ほろをな、
 まなこと、°きんはとみいうる、のく、くふいよ、
 いがれわほいじいきじととと、ぼか、がんろみ、
 日いかか、くたまそはかお、き、せん、こやなま、
 がらりは、りすい、いもまの、るじ、こべ5し、
 °ふ、ま、°では5つえ5、しま、ろッふた、
 たんつし、5ノはあやふたにふ、し、にトん、
 のをまた、ふ1んるくんかジん、つた、のシがほ、
 しみら、ん、トたい学もらエで、ま、こよでく、
 くしな、で、にいた校あでツ、ま、こつてと、
 なかい、も、かにりにすト、なげ、たづきお、
 るい5、い、はいと、°コぼ、いか、5でまなな

「やさしいきもち」

一年 萩尾心結

げん　に
 とな　くた　が　や　な　ひ
 お　げ　ま　り　ひ　ま　つ　よ
 も　ん　さ　し　と　に　た　う
 い　に　ん　て　り　ど　の　し
 ま　つ　の　、　ぼ　う　で　の
 し　か　お　す　づ　ぶ　、　え
 た　ま　と　つ　ち　つ　こ　「
 り　う　と　の　の　の　と　「
 ひ　、　さ　そ　こ　の　ほ　「
 と　か　ん　ば　ど　ん　と　「
 り　え　と　に　も　も　を　と　「
 ぼ　っ　お　い　た　た　え　と　「
 っ　て　か　た　ち　ち　ら　ば　「
 ち　き　あ　お　の　と　び　に　「
 の　ま　さ　は　、　く　ま　し　「
 こ　せ　ん　は　な　せ　ま　し　「
 ど　ん　は　し　わ　さ　た　「
 ど　も　で　し　て　を　ん　が　「
 た　ち　は　、　さ　ま　さ　ん　が　「
 は　、　さ　み　し　か　つ　た　だ　ろ　う　「
 ね　む　し　か　つ　た　だ　ろ　う　「
 と　き　も　た　つ　つ　「
 ち　に　、

ら助解といひ、助け決声どるけるしをう人てこてかかがあとあけしいげはげ、またたでたなしら、いきいぜた、でまなこが必ずせとまゝず、ん思っがいて、まいぼするく。のは千が一畝を人さ聞一んい人のてこよ、まうそつにのて六こい千まゐる人っひ以てと上いがのるい人事たをを

☆第八回高森文夫を偲ぶ詩大会【三席】

ここにいてよかった

五年 竹田 碧

よほいここんご五わ思わとほーみ仲しこわ
 かんてれうのでの年たいだ思んこん間てこた
 っとすかか五くメーし、しうとれな、いにし
 たうすらい年れん組はくは自うはとうたいは
 にももは一たバは、るご分に、いいのなこ
 わう自し組か、こしこがよきたバだかこ
 た。分てにらがみのいで心かセかるっに
 じいいにわん五思うのっきら、うたい
 は、しなくこたな年いま中ただ仲そ。らて
 んい道にし仲一はれになっ間し。つよ
 こ、のだをいの間組していあたにて。らか
 こに、道ろえる道だにて、る。んな先。いっ
 に、をうら。え。い。い。つ。だれ生。思た。
 て、あ。ん。え。る。なら。た。を
 る。で。ら。いい。

つながる命

五年 鈴木優妃乃

そまいも笑といはお泣おが二
んたつう顔ととか母い母九
な新か歩にもこまさてさ十前
命しなけな小のいんいん七に
をいくるつま赤りとたは才近
私命なうたくちへいすでく
はがるうてや行くくごな
は大生命かんくしにくす
切まだなわがとよ悲なむ
にれけっい生思にしっひ
しるどていまいおくたい
たいどいのれ出花てば
いこるでたすを持たくあ
かみんな持ってくさん
でな

